

第12号

定価一年間300円
組合員の購読料は
組合費を含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel 0139(52)0858 FAX (52)1490
発行責任者 高橋 正人
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

29回の歴史に一区切り

檜山教育・子育てフォーラム上ノ国集會



230人

垣根越え、つなぐらなつた。...

檜山教育・子育てフォーラム上ノ国集會が12月2日、上ノ国町総合福祉センター（ジョイ・じよぐら）で開催されました。管内各地から230人を超える父母、住民、教職員が集まりました。

午前はコラム教室、「専門家から学ぶ」「子どもと一緒に学ぶ」「子ども達と一緒に感じる」「ふるさとへの思いを聴く」の分野で5つの講座や教室、企画が展開されました。

午後からの全体集會が行われま

した。開會集會では、現地実行委員会との父母と教職員とが、子どもの詩を群読し、「未来へ」を合唱。カミゴン（上ノ国町ご当地キャラ）も登場し、和やかな中にも、しつとりとした雰囲気、幕を開きました。そして、檜山座による「ぶち合わせ太鼓」。会場から自然と大きな拍手が沸き上がるほど、迫力のあるものになり、檜山の教職員達が代々受け継いできた「檜山座」の歴史を感じさせるものになりました。また、

一区切りの集會として、フォーラムの歴史を振り返る「スライドショー」も流れ、涙をぬぐう先輩達もおられました。実行委員会を代表して上ノ国町父母の武田奈津子さんが開會あいさつ、「こういう集會は、幕を閉じます。これからも一緒に学び、語り合う場を考えていきたいと思います」と訴えました。来賓として上ノ国町長・工藤昇氏があいさつを行い、「子どもの心の音叉に

檜山教組第2回評議委員会
高橋委員長挨拶

「子どもたちに恥じない選択を」

ご承知のように、先日衆議院が解散しました。野田政権は国民の失望と怒りに追いつかれました。解散と怒りでしょう。民主党が掲げた2009「マニフェスト」には、高校授業料の無償化、後期高齢者医療制度の廃止等があり、多くの国民の期待の中で政権が交代しました。教員免許更新制度の見直しも謳われており、少なくない教職員が民主党に投票したのだと思います。

12月4日告示、16日投票で総選挙が行われます。最新の世論調査では、自民党が16.6%、民主党は6.6%、どちらが3年前より大きく減らしているか、国民は、民主党政権を見限った事実は確かです。かつての自民党政権に後戻りしないでほしい。政権に立候補するのは間違いではないです。

私には、1993年（今から20年前）に、川崎の団地が建てられました。その当時は、民主党が政権を握っていました。その時、私は、この選挙で、民主党が勝つと、子供たちが、まともな教育を受けられる、と信じていました。そして、この選挙で、民主党が勝つと、子供たちが、まともな教育を受けられる、と信じていました。

原発問題では、官邸前や地方での反原発デモの空前の広がり、デフレの問題など、どれも自ら掲げたマニフェストに反することはばかりです。今年1年で見ても、大飯原発の再稼働、大間原発建設の再開、消費税増税の法案の成立、沖縄の米軍普天間基地への問題など、どれも自ら掲げたマニフェストに反することはばかりです。

軽視できないのは、近頃東京都知事を辞めた人と、前の大府知事「第三極」市長が野合してできた勢力が、「第三極」を形成しつつあるという事です。どちらが、東京と大阪で教職員を敵視し、「君が代」の斉唱を強制してきた人物ですか？

私には、1993年（今から20年前）に、川崎の団地が建てられました。その当時は、民主党が政権を握っていました。その時、私は、この選挙で、民主党が勝つと、子供たちが、まともな教育を受けられる、と信じていました。そして、この選挙で、民主党が勝つと、子供たちが、まともな教育を受けられる、と信じていました。



閉會集會では、大口加代子運営委員長が「これからの『すこやかな子どもを育てるために、みんなが手をつなごう』という精神を忘れることなく、子どもたちを真ん中に据えた新たな『教育・子育ての人垣』を築けるように共に考えていきたい」と述べ、集會を終えました。

教育子育てフォーラム



フォーラムでは、午前中にコラム教室が5企画行われ、どれも内容が豊かで好評を得ました。

◆「子どもの話の聴き方教室」の講師は、はるこどもクリニックの高柳滋治先生。参加者は18名。「聞くことと癒しの力」援助技法を学ぶ」と題して、協力共同の人間関係を築くために健康的な共同体感覚を身に付ける必要があると強調。そのためには、「不健康な」語りから「健康的」語りをしていくために、原因追及から解決志向へ、自己執着から共同体感覚に自分を変えていく必要があると話され、トレーニングをしました。

◆「手作りおやつ教室」の講師は、長谷川みどり先生。参加者は44名。親と子ども達と一緒に「お豆腐ティラミス」「ねじりきなこ」作りに挑戦。親子で簡単に手軽に作れ、しかも栄養面も配慮した長谷川レシピを手に入りました。和気藹々と楽しい親子の時間になりました。

◆「手作りおもちゃ教室」の講師は、上ノ国小学校の押見先生。参加者は35名。親子で一緒にフェルトから動物作りに挑戦しました。だんだん



ゆきとどいた教育を求める全国署名

松山・熊石で 6852筆

文科省が少人数数学級実現へ概算要求！ 初年度5500人、5年で27800人

「ゆきとどいた教育を求める全国署名」(ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会提起「教育署名」)が11月末日までに取り組まれました。松山教組扱いで6852筆を集約、12月5日の北海道提出集会でまとめられ、総選挙開きの道議会に提出される予定です。提出数は全道で、62161筆でした。また、国会提出分は十一月一日の全国集約集会に送られる予定です。

教育署名運動はこれまで昨年度まで23年間続けられその総数は四億一千万筆。ゆきとどいた教育を求める要求は大きなうねりになり、国に先駆けてすでに全ての都道府県で少人数数学級が実現、独自に教育無償化の実施に踏み切

ことで、命との距離感を近くに感じようになり、羊の飼育、稲の発芽、水田の水・・・自然からパワーを感じ、自らの営みと社会の有り様を問題にしています。

地元の漁師、木村さんは、「乱獲によつて漁獲量も年々減っているが、苦しい中でもなんとか続けることで、仲間たちが戻ってくる場所があるのではないだろうか」、また、「ふるさとでみんなを『待つ』楽しみは、ふるさとにいるから味わえる」と生業とは別の意味での価値観を、飾らない言葉で話しました。

金子さんは、江差町の老人ホームに勤める一児の父。老人ホームで大切なことは職員同士のチームワーク。一人のお年寄りに対してのケアプランをみんなに周知すること。今取り組んでいることは、80〜90歳のお年

寄りの「おむつ外し」。金子さんは、おむつがとれた生活を喜んでくれるお年寄りの「ありがとう」の言葉にやりがいを感じています。その人のことをよく知り、一人の人間としての尊厳を大切にしている話に温かい空気が流れました。また、父親の立場から、(松山に)助産施設がないことに危機感を訴えていました。

上ノ国町 漁業 木村優作 さん

上ノ国町 福祉 金子朋 さん

～被災地から切実な連帯の輪～

私の実家(宮城)の友人に協力してもらったのが 救あります。同じく中学校の教師をしています。この地区は、津波で学校が流され、間借りをして学校を再開しました。その中学校の先生方から1筆届きました。どうぞ何かのおりには、そのことを頭に入れ、被災地のことを想ってください。」とのメッセージが添えられていました。

被災地はいまだに復興が進まず、苦しんでいます。滝澤先生の呼びかけに連帯して、その先生方から貴重な1筆をいただきました。(笹谷)

◆「ふるさとの思いを聴く」青年のしゃべり場」の参加者は45名。過疎化が進む松山を見つめる入口とし

て、松山で育ち、松山で暮らす青年達の喜び・不安・希望を3名に語ってもらいました。パネラーはせたな町で「農」を営む大口義盛さん(34)、上ノ国町の漁業木村優作さん(29)、江差町の老人ホームに勤める金子朋紘さん(28)。北海道教育大学教職員大学院教授の福井雅英さんの絶妙のコーディネートで、彼らの「思い」を参加者と共有しました。

3人の方々は、①今の生活と仕事、②松山についてのイメージ③尊敬する人間像、自分の人生設計と松山の将来、などについて思うところを自由に述べました。



◆心にしみる映画「ハッピーフイート」の参加者は50名。親子や子ども同士、大人同士、色々な方が鑑賞に

来られていました。ストーリーが進むにつれ、映画の世界に引き込まれ、共に笑い、共に感動できる時間になりました。

◆「ふるさとの思いを聴く」青年のしゃべり場」の参加者は45名。過疎化が進む松山を見つめる入口とし

て、松山で育ち、松山で暮らす青年達の喜び・不安・希望を3名に語ってもらいました。パネラーはせたな町で「農」を営む大口義盛さん(34)、上ノ国町の漁業木村優作さん(29)、江差町の老人ホームに勤める金子朋紘さん(28)。北海道教育大学教職員大学院教授の福井雅英さんの絶妙のコーディネートで、彼らの「思い」を参加者と共有しました。